

平成21年度第4回後見的支援推進プロジェクト会議録	
日 時	平成21年8月18日（金）午後2時～4時
開催場所	関内中央ビル（公社側）3A会議室
出席者 （敬称略）	<p>&lt;委員&gt; 八島敏昭、坂田信子、川島志保、瀧澤久美子、阪野圭二、金子恵子、和田千珠子、深井浩治</p> <p>&lt;事務局&gt; 松田米生、高木美岐、國分忠博、高橋智一、鈴木和男、佐藤裕子、小池美恵子</p>
欠席者	なし
開催形態	公開（傍聴者1名）
議 題	<p>1 前回の議論の整理</p> <p>2 後見的支援の仕組み（案）の検討</p> <p>3 まとめ</p>
議 事	<p>&lt;コーディネーターについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料4の中のコーディネーターの機能として「本人の希望と目標に基づく本人の自立支援計画を支援する」と記載しているが、これは「本人の自立生活支援計画を作成する」としたほうが、より具体的でわかりやすいと思う。仕組みを新規に構築するのであれば、役割は明確にした方がいい。</li> <li>・コーディネーターは、障害者本人のことをよく知っている人であってほしい。また、本人と「一緒に生きている人」としての存在であってほしい。</li> <li>・自立支援計画の作成というのは、本人の生活すべてを把握している必要がある。ので、コーディネーターに求めるのは無理があるのではないかな。</li> <li>また、コーディネーターの役割の一つとして「あんしんキーパーの研修」が挙げられているが、相当に高い能力がないとできないと思う。</li> <li>・コーディネーターには漠然とした不安を解決してほしい。差し迫った危機はないが、将来の生活に向けた漠然とした不安を持っている人は、相談内容があいまいなので、具体的な相談ができない。そのような状況の人を相談のターゲットに絞ると、コーディネーターの役割の方向性が見えてくると思う。</li> <li>・コーディネーターには親の代わりに本人の生活を包括的に把握する役割も担ってほしい。本人の通う各事業所が作成している自立支援計画を、トータルで見る視点も必要だ。</li> <li>・危機的な状況が起きた際の解決策を事前に準備していない人に対して、「こういうことが必要なんだよ」、「自分に何が起こるかわからないから、こういうことをしておくよ」と指摘して、マニュアルの作成を促してくれるような人がほしい。</li> <li>・コーディネーターの役割として、まず始めに、エコマップのような関係図で、あんしんキーパーや本人の状況を丁寧に確認することが挙げられる。そして、その中で、あんしんキーパーを担える人がどのくらいいるのか確認するという</li> </ul>

イメージ。

<あんしんキーパーについて>

- ・あんしんキーパーが障害者本人の周りに4人揃うとは思えないし、本人の身近にずっといるとは考えにくい。また、年齢や状況とともに、あんしんキーパー役割も変化していくので、その対応をどうするかが問題だ。
- ・あんしんキーパーには、交通費程度の保障はしておかなければならないと思う。報酬は、役割次第だろう。
- ・キーパーとコーディネーターは、同じところ（法人）に所属したほうが、連携も取れていいと思う。
- ・あんしんキーパーは、障害者全員に4種類全てつく必要はないし、つかない人もいていいと思う。また、そもそもあんしんキーパーを4種類に分けることについて、議論・整理をする必要がある。
- ・挨拶等をし合う身近な地域の方は、「あんしんキーパー」という特別な役割を与える必要はないと思う。身近に住んでいる障害者に、何か緊急事態が起きた時のための連絡先を把握しておいてほしい。そのつながりをコーディネーターに作ってほしい。

<コーディネーターやキーパーを支える法人について>

- ・後見支援サービス提供運営法人は、「キーパーの育成機能」「課題対処機能」「日常的な支援機能」等いくつかの機能が必要だ。また、コーディネーターやキーパーを支えられるだけの能力がある法人ではないと、難しいと思う。
- ・継続的な支援を、親でも親戚でも兄弟でもない人が担うことによる不安定さ、不確実さをどのように担保するのが気がかりだ。「親の代わりはできないから、複数でやるしかない」が、親が一人で行っていたものを、複数の人が分かち合う、さらにそれを様々な人で分かち合うということになるから、制度の具体的なイメージが描けない。

<後見人の役割>

- ・確かに、成年後見人にも、本人をよく知り、障害の理解もある人はいるが、そのような人ばかりではない。したがって、その課題をこの仕組みで解決していくべきだ。もしくは、成年後見人の方自体の障害理解を深めていくアプローチ方法もある。

<制度の名称について>

- ・制度の名称は、「親なき」というフレーズを強調しない方がいいと思う。「親亡き後」を抜かして「地域で安心して暮らすために」、また、「親ある今のうちから」を除いて、「成人期の本人を支える仕組みを考える」と、すっきり変えてしまった方がいい。
- ・「コーディネーター」という名称は、障害者支援センターの「地域コーディネ

ーター」もあり、混乱してしまう人もいるかもしれない。「あんしんサポーター」等のように名称を変えて、整理をしていったほうがいいのではないかな。

#### <人材養成について>

- ・コーディネーターの養成研修は、本人・家族・支援者等の声をすべて聞いてもらうというような研修を組み立てなければならないのではないかな。

#### <当事者の視点の重要性>

- ・コーディネーターとあんしんキーパーの役割の整理以前に、本人がいかなる生活の希望や目標を持っているのかによって、求められる役割も違ってくるということを前提としなければならない。
- ・希望や目標を持っていない人もいないのではないかな。また、親がいるから一緒に生きていようというような目標や希望を持つ人もいる。親が亡くなった時に次の目標を探せないのではないかなという不安のある人があることを理解してほしい。
- ・コーディネーターという名称にはこだわらないが、本気で本人の側に立つ人を、確保してほしい。「どこに所属する誰がその役割を担うのか」という問題については、各所属先の利益がどうしても反映されてしまうので、具体的に提案することは難しいが、「本人の視点に立つ」という一点さえ把握しておけば、仕組みは構築できると思う。
- ・障害者本人とコーディネーターとの相性等の問題もあるので、自分の住んでいる地域以外のコーディネーターを選べる方がいいのではないかな。選択肢があることが重要だと思う。

#### <法人後見について>

- ・法人後見制度は、障害者にとって有益だと思う。
- ・社会福祉協議会では、法人後見を行っている。しかし、それ以外の法人による法人後見はごく少数だ。なぜなら、個人では担えないような非常に重いケースや困難なケースの成年後見を法人が担うようになっているからだ。
- ・今後、担い手として考えられるのは、NPO だと思う。弁護士と連携をすれば、高度な専門性をもって成年後見を担える法人となれるはずだ。
- ・裁判所は法人の能力や、持続性などを重視する。したがって、法人後見への行政的支援は重要になると思う。

#### <制度の展開について>

- ・議論が具体化されてきたので、エリアもしくは対象を設定して、モデルを実施して検証する必要がある。
- ・グループホームがモデル事業として始めやすいのではないかな。
- ・作業所の中でも、まだ NPO になっていない作業所が、もっともこの制度を必要としていると思う。所属している親の中には、「私の目の黒いうちは」とあ

	<p>まりサービスを使わずにいるが、将来を不安に思っている親は結構いる。</p> <p>&lt;障害者本人からの手上げ方式について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手上げ方式で適切に制度が運用されていくのか疑問を感じる。本人が課題を自覚していない場合には、自分から手は挙がらない。</li> <li>・適時適切な場所へ <b>SOS</b> を発信する力が必要になると思う。</li> <li>・情報を自身で探せない人もいる。そのような状況の人たちへ、どのように情報発信をしていくのが課題だ。</li> </ul> <p>&lt;制度の宣伝方法について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報で広く宣伝して周知を図り、手を挙げてもらうというよりは、制度が自分にとって有益か否かを、きちんと判断してもらえるよう、丁寧に伝えていかなければならない。</li> <li>・親の会での口コミ等が、有効だと考える。また、作業所や施設等のネットワークの中で周知をしていくというのも重要だ。</li> <li>・親の会に入っていない人もいる。その様な人への伝え方も考えなければならない。</li> <li>・対象者は最終的には広く募った方がいいだろう。ただし、まず始めの取りかかりとしては、現在十分な支援が受けられていない人から優先的に進めていくのもいいかもしれない。</li> </ul> <p>&lt;次回の議論について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回は、事業の展開イメージや、仕組み案の中に提示したあんしんノートや、制度を補完するようなオプションについても、議論をしたいと思う。</li> </ul>
<p>資 料</p> <p>・</p> <p>特記事項</p>	<p>1 資料</p> <p>資料1 「親なき後も地域であんしんして暮らすために、親ある今のうちから「本人」を支える仕組みを考える」</p> <p>資料2 障害者とその家族のライフステージ</p> <p>資料3 後見的支援推進プロジェクトで議論する部分</p> <p>資料4 あんしんキーパー・コーディネーターについて</p>